

経営改革構想

【第1段階】
文系大学から文理融合型大学への転換

【第2段階】
創造と変革を先導する文理融合型大学への進展

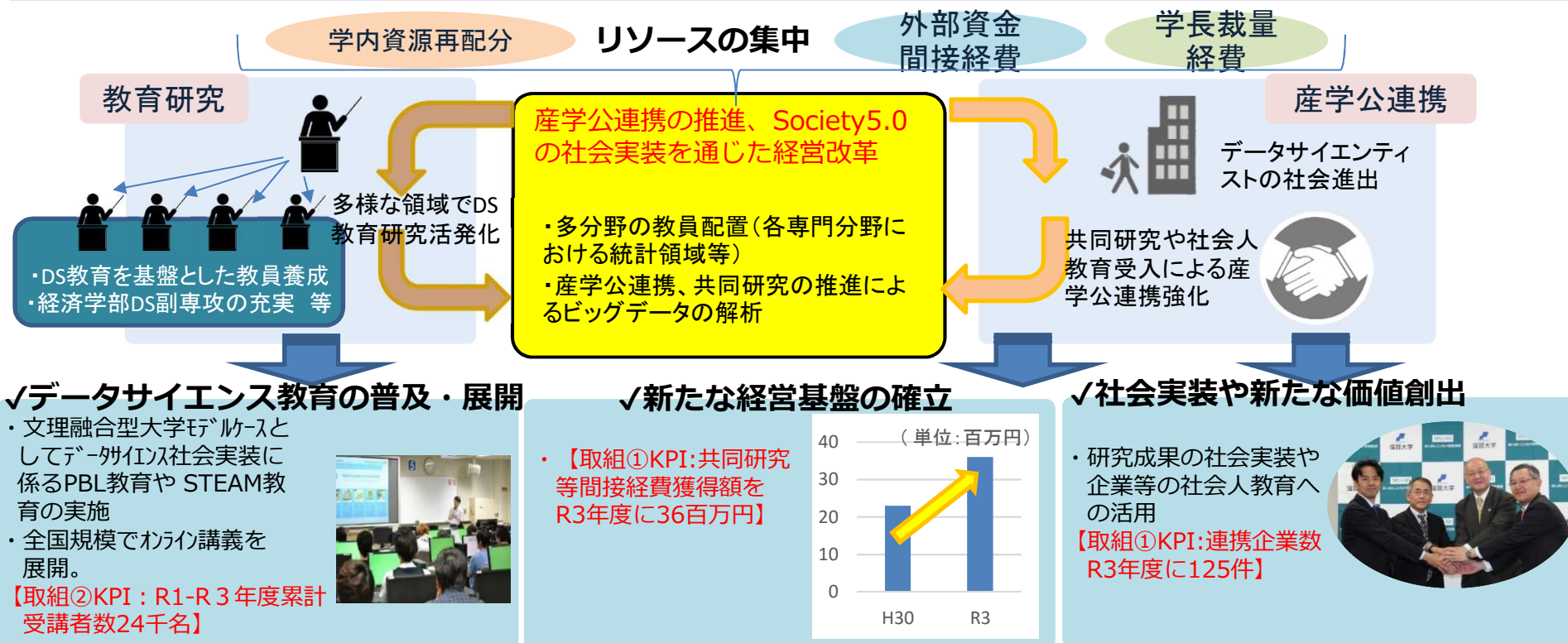
学長のリーダーシップの下、学長裁量経費の活用、教員組織の再配分を含めた全学的な取組により、教育学部・経済学部の2学部のみで構成される文系大学から文理融合型大学へ転換。日本初のデータサイエンス学部・研究科を設置し、データサイエンス教育研究拠点を形成。

- ・文理融合型大学モデルケースとして、各専門分野でデータサイエンス社会実装に係る教育（PBL教育、STEAM教育）を展開
 - ・産学公連携を推進し、産公でのデータサイエンスのエキスパート人材を育成
- データサイエンスを駆使し価値創出できる人材養成し、新たな社会の活力につなげる

【経営改革構想KPI①-③：DS研究科及び教職大学院収容定員の増】

社会的要請

- ・【経済財政運営と改革の基本方針】…「Society5.0時代に向けた人的・物的投資を一層喚起」
- ・R元年度入試志願者増加人数 **全国国公立大学トップ**
- ・R元年度DS修士課程入学者 **23名中19名社会人**
- ・H30共同研究受入件数 **H29比倍増**



→ Society5.0時代における、データサイエンス教育モデルの構築・普及、並びに、経済・産業等の社会の新たな活力としてのデータサイエンス社会実装への展開



2. 事業計画

令和元年度国立大学経営改革促進事業 計画調書
ーデータサイエンス領域教育研究拠点形成を軸とした経営改革ー

事業内容

取組①
データサイエンス領域を軸とした産学公連携の推進

取組②
データサイエンス教育の普及・展開事業

- ①-1 リモートセミナーシステムを導入し、遠隔地の企業や学校にデータサイエンスセミナー等提供。データサイエンス領域データ分析処理システムを導入し、更なる企業等のビッグデータの解析及び研究の社会実装に活用：【補助金】
- ①-2 社会実装担当教員をR3年度までに7人増員、専門教員をチームリーダーとした産学公連携推進プロジェクトチームを整備し、社会実装を推進：【社会実装担当教員人件費…外部資金、チームリーダー人件費…補助金及び外部資金、活動費…学長裁量経費等】
- ①-3 R1年度、R2年度に学長のリーダーシップの下、スペースマネジメントにより確保した企業との共同研究室の環境整備：【補助金】
- ② 学部横断型教育研究プロジェクトを支援し、多様な領域でのデータサイエンス教育研究を推進するとともに、データサイエンス教育普及事業を推進：【学長裁量経費】



3. 事業の効果

令和元年度国立大学経営改革促進事業 計画調書
ーデータサイエンス領域教育研究拠点形成を軸とした経営改革ー

事業の効果

取組①
データサイエンス領域を軸とした産学公連携の推進

取組②
データサイエンス教育の普及・展開事業

- ・研究成果の社会実装や企業等の社会人教育への活用
【KPI:連携企業数R3年度に125件】
【KPI:共同研究等間接経費獲得額をR3年度に36百万円】
- 経済・産業等の社会の新たな活力としてのデータサイエンス社会実装への展開、及び産公でのデータサイエンスのエキスパート人材を育成し、イノベーションの創出に貢献
- ・文理融合型大学モデルとしてデータサイエンス社会実装に係るPBL教育やSTEAM教育の実施
- ・全国規模でオンライン講義を展開し、データサイエンス教育の普及促進。
【KPI:R1-R3年度累計受講者数24千名】
- Society5.0時代に対応した、本来の専門に加えて副次的な専門知識と能力を持つΓ(ガンマ)型人材の輩出、及び全国的なデータサイエンス教育の普及・展開に貢献